

* ピースウィンズ・ショップから *

ようやく日本に到着しました!

待ちに待った東ティモールからの新豆を満載したコンテナが、1月に日本に到着しました!これを受け、ピースコーヒーレギュラー粉200g、焙煎豆500g、ドリップバッグなどの商品は、新豆への切り替えを順次開始しております。「あれ?今日はちょっと違うな」と思われた方がいらっしゃいましたら、新しい豆の影響がもしもありません。

コーヒーは農作物なので、ブドウから作るワインのように毎年味が変わりますが、今年も美味しいコーヒーだと多くの方が嬉しい評価をいただいています。ぜひ一度、ご自身で味の違いを確かめてみてください。皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで

東京事務所へお送りください。FAX番号が異なるため、

同封の注文用紙をお使いになれます。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

お知らせ

4月末に東京事務所を移転します

関係団体と共同で事務所を利用するため、PWJは4月末、東京事務所の移転を予定しています。移転後は電話番号、FAX番号が変更になります。(フリーダイヤルは0120-252-176は変わりません)。新しい番号が決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。ご不便をおかけして申し訳ございませんが、移転後も何卒よろしくお願いいたします。移転後の新住所は以下の通りです。
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目41番12号
富ヶ谷小川ビル2F
(小田急、東京メトロ千代田線の代々木八幡、代々木公園、代々木上原駅などが最寄駅です)



PWJの活動にご協力ください

※認定 NPO 法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179841

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域へ送金のご依頼の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨等)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※お振込みが必要な場合などはご連絡ください。ご連絡いただいた場合、銀行側ではご住所が分かりかねますので、領収書をお送りいたします。

支援者のみなさまへ

2月から、PWJの新しい年度がスタートしました。1996年2月に設立したPWJの活動は、皆さまに支えられ、20年目を迎えることができました。今年度も、支援を必要としている多くの難民や被災者の方々に支援を届けられるよう、スタッフ一同、努力いたします。変わらぬご理解、ご協力をお願いいたします。



メディア掲載報告

- 11/14 朝日新聞・天声人語で災害救助犬「夢之丞」紹介
- 12/6 中国新聞にフィリピン台風に乗った救助犬・レスキュー隊出動が掲載
- 12/17 毎日新聞で「ふるさと納税」の取り組み紹介
- 12/19 日本テレビ「スッキリ!!」で災害救助犬・保護犬事業が紹介
- 2/2 東ティモールの週刊ビジネス誌「Business Timor」11面でPWJの活動紹介
- 雑誌「トコト」2・3月号に、歌手 MISIA とピースワンコ・ジャパン 事業部長大西裕子らの対談が掲載

発行: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
本部事務所: 〒720-1622 広島県神石郡神石町加賀田1161-2 2階 ☎08-47-89-0865 (代表)
東京事務所: 〒1108-0074 東京都千代田区九段南4-7-19 ツツヤビル2階 ☎03-5213-4070 フリーダイヤル ☎0120-252-176
ホームページアドレス: <http://www.peace-winds.org> Eメールアドレス: info@peace-winds.org



peace winds JAPAN

支援のプロを、世界の現場へ

厳しい冬を乗り越えるために

—シリア難民、イラク国内避難民支援—

事務所に着くと、まずライターを探すのが日課になっている。気温が連日氷点下になる冬のイラク北部では、灯油ストーブなしでは座って仕事をするのが難しいほど寒いと感じたためだ。カーテンを開けると、目の前の山々にはたくさんの雪が積もっている。しばらく寒さに体を震わせていると、現地スタッフのスーズンが出勤してきた。彼女は、テント生活を続けるシリア難民やイラク国内避難民の厳しい状況に思いを馳せているようだ。この冬が終わるまで、テントの中で家族全員が1台の灯油ストーブに頼る生活を強いられるのはあまりにも過酷だという彼女の話を、支援活動の中で出会った人々の顔が浮かんできた。

越冬支援のため12月に難民キャンプを訪れた際、シリアの都市コバニからきた家族と話をすることがあった。彼らのテントに入ると、1週間前に避難してきたという親戚の女性が身を寄せていた。彼女は長い避難生活の疲労で倒れ、テントの片隅で布団にくるまり横になっていた。灯油ストーブは1台しかなく、テントの中には冷気が残っている。そのストーブさえ、現地政府から配布されたものが故障し、近所から借りてきたと聞いた。ただでさえ厳しい難民たちの暮らしに、寒さが追い打ちをかける。

多くのシリア難民のキャンプ生活が長期化する一方、昨年来の「イスラム国」の台頭により新たに避難を強いられ

たシリア難民やイラク国内避難民が、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が活動するイラク北部クルド人自治区に逃れてきた。その数は合わせて120万人を超えるとして、現地政府や国際社会による支援も、ニーズに追いついていないのが現状だ。特にキャンプ以外の場所には支援が届きにくく、そこで生活する人たちの苦労は大変なものである。

ドホーク州ザホ市に建設中の建物では、冷たい風が吹き抜ける中、十分な防寒対策も取れないまま多くの国内避難民が暮らしていた。私たちが子ども用の衣類を配布すると、避難民の女性は「これで子どもたちが暖かくなることが出来ます」と言って笑顔を見せてくれた。その笑顔を忘れることが出来ない支援を必要とする人々がここにいる限り、日本からの支援を最も困っている人々へ届ける努力を続けていく。

(PWJイラク駐在員 イ・チャンウ)



PWJが配布したコートを着る子どもたち 十分な防寒設備のない住居

支援のプロを、世界の現場へ

2014年度(2014.2.1~2015.1.31)のPWJ活動一覧

イラク

内戦が続くシリアからの難民に加え、6~9月のイラク国内情勢の悪化により、新たに80万人がイラク北部に避難してきました。PWJは緊急事態に対応し、食料や生活物資を提供したほか、国連や現地政府と協力して大規模な避難民キャンプを建設しました。シリア難民についても、養育や避難生活の中で健康に暮らせるよう、難民キャンプの整備や仮設学校の建設、子どもたち1万人以上を対象とした集団健診を行いました。厳しい冬のため、暖房器具や灯油、児童向けコートなどの配布も行いました。

緊急支援で物資を配布する様子



アフガニスタン

2013年3月からアフガニスタンの市民社会を代表するCivil Society Organization(CSO)ネットワーク組織の能力を強化するための事業を、日本の3つのNGO(難民を助ける会(AAR Japan)、日本国際ボランティアセンター(JVC)、シビルソフィア(CS))と連携して実施しています。2014年度は、助成金などを獲得してプロジェクトを運営するための実務研修を実施しました。

モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホットアイル」から、「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援を継続しています。2015年1月現在、3人がセンターで生活しています。

中国

8月に中国雲南省昭通市で発生したM6.5の地震を受け、PWJは発生翌日、スタッフ3人を現地に派遣し、240世帯に食料、衣類、寝具等の物資を配布しました。8月以降は、現地協力団体と、被災した約9,000世帯の子どもたちに学用品を配布しました。配布された学用品は学習に役立っただけでなく、子供たちにとって震災前の日常を取り戻すきっかけとなり、心理的な支えにもなりました。



学習用のかばんを受け取った子どもたち

ミャンマー



新しくできた井戸で水をくむ村人たち

長年の民族紛争で故郷を離れた難民、国内避難民の増進に備え、2013年にカレン州で始めた給水事業では、2014年6月までに15村24カ所で安全な飲料水を供給するための井戸の建設、修繕を行いました。加えて、井戸の保守管理や衛生的な維持の方法、手洗いなど衛生的な生活習慣を身につけるための講習を村人に実施しました。2015年3月までに、さらに17カ所で給水施設を建設、修繕する予定です。

フィリピン

2013年度から引き続き、レイテ島カリガラ町において、台風30号(ハイエン)で被災した690世帯を対象に仮設住宅の建設支援を行いました。14年12月には、フィリピン中部に上陸した台風22号(ハグビート)の被害に即時対応するため、上陸前日に災害救助犬チームが現地入りし、台風通過後、直ちに被害状況の調査に当たりました。大型台風が頻発するフィリピンに関して、PWJは引き続き、救助犬チームによる人命救助、それに続く緊急支援活動に備えます。



ヘリで被害状況を確認する救助犬チーム

南スーダン

治安悪化による入国制限のため、隣国ケニアの首都ナイロビからの遠隔指示で事業を進めました。現地提供団体と協働し、国内避難民キャンプや学校において、コレラ対策などの緊急衛生支援、こみ回収や清掃、トイレなど衛生設備の建設、衛生普及員の育成などを行いました。また、2014年10月に発生した洪水被害に対応し、ナイロビ中州6島の5,142人に水・衛生キットを配布しました。15年度も引き続き、キャンプや学校で衛生支援を継続します。

学校に建設したトイレと手洗い場



ケニア

隣国ソマリアからの難民が生活するタダーブ難民キャンプの4地区で計2,175戸の仮設住宅を建設しました。2014年末からソマリア難民の帰還が試行的に始まりましたが、難民キャンプでは現在も35万人が暮らしており、治安が不安定なために母国に帰りたくても帰れない人々が多くいます。難民が少しでも快適な居住空間で生活できるよう、15年度も仮設住宅の建設を継続します。

PWJが建設した仮設住宅



スリランカ

2009年の内戦終結で避難民キャンプから故郷へ帰還した人々の生活を再建するため、東部トリノコマレ県で、稲作農家・酪農家への生計支援を行っています。14年度は、農家による協同組合の設立、精米所と牛乳を地元で加工・販売する牛乳集荷センター兼販売所の建設、組合員へのビジネス研修を実施しました。9月に運営を開始した牛乳集荷センター兼販売所は、幼穉園に給食用牛乳を配達し、地域からも好評を得ています。15年度は、地元行政と連携し、組合がより自立した施設運営を行っていただけるようサポートします。



販売所でアイスクリームを食べる地元の人々

東ティモール

2014年度は初めてアメリカとオーストラリアにコーヒーを輸出しました。「今までの東ティモール産コーヒーとは全くの別物」という声も聞かれ、東ティモールレナフォ産のコーヒーは国際市場で高品質で美味しいコーヒーとして認知されつつあります。また、東ティモールの首都ディリにカフェをオープン。東ティモール初の品員にこだわった国産コーヒー専門店として、人気を集めています。15年度は品質管理能力を高め、美味しいコーヒーを世界中へ届けます。

首都ディリにオープンしたカフェ



日本

東日本大震災被災者支援

宮城県と福島県において、主に地域活性化に取り組み地元団体との協働事業を実施しました。高齢者や子どもを対象にしたイベントの開催や住民の活動拠点の建設、漁港周辺のソーラー路灯設置や地域産業の復興支援などです。長期化する原発避難者への支援として、被災者の保護事業も行いました。2015年度も地元団体との協働に重点を置き、活動を継続します。



「カネウキ体験」に参加した子どもたち

広島土砂災害被災者支援

8月に広島市で発生した大規模な土砂災害に対応し、災害救助犬とレスキューチームを現場に派遣して捜索・救助活動にあたったほか、避難所を回ってペットフードなどを配布したり、被災のため買えなくなったペットを一同的に預かったりしました。11月からは地元の団体と協力し、イベントを通じて高齢者を中心とした地域住民の交流を促す活動を続けています。

ピースワンコ・ジャパン事業

殺処分ゼロをめざした犬の保護・譲渡では、広島県神石高原町の保護施設を拡張し、常時200頭を収容できる態勢を整えました。また、4月に広島市、12月には神奈川県湘南地域に譲渡センターを開きました。ふるさと納税を犬の殺処分ゼロに活用するしくみや、譲渡が難しい犬の終生飼育の費用を支えていただく新たな会員制度をスタートさせました。



湘南地域にオープンした譲渡センター

広島県神石高原町 地域再生事業

「人と動物と自然の共生」をテーマとした観光コミュニティパーク「神石高原ティアガルトン」の開催に向け、事業主体となる地元の企業を支援しています。現地では牧場の牛舎や駐車場などの工事が始まり、15年7月のオープンをめざした準備が加速しています。